

校内チーム制の段階（第1段階～第3段階）チェックシート

氏名

項目ごとに、○を記入してみましょう。(時期によっての変化もチェックしてみましょう。)

段階	項目	達成状況	年度初 (月日)	中間期 (月日)	年度末 (月日)
第1段階	1 スーパーバイザーの動き	校長を中心として、校内チーム制を設定している。			
	2 コーディネーターの動き	OJTチームのニーズや課題等を把握しながら、意図的・計画的・継続的にOJTチーム研修が進むよう調整している。			
	3 メンター・メンティーの動き	メンターはメンティーのニーズや課題に応じた研修を実施し、指導や助言をしたり、思いを共有する時間を設けたりしている。			
		メンティーは、メンター等の指導助言を受け入れることができている。			
	4 OJTチームの動き	OJTチームを組み、コーディネーターが日程調整をしながら、定期的にOJTチーム研修を実施している。			
	5 学校の課題に対する意識	個々の教職員が学校の課題に対して計画的に取り組もうとしている。			
6 組織風土	話しやすく和やかな雰囲気がある。				
第2段階	1 スーパーバイザーの動き	学校の課題に対応する校内チーム制を構築すると共に、人材育成の視点も踏まえた、戦略的な校内チーム制を設定している。			
	2 コーディネーターの動き	OJTチーム研修が、学校の課題解決に結びつくよう助言や調整を行い、OJTチームの取組や提案が、校内へ反映されるよう調整し、下支えをしている。			
	3 メンター・メンティーの動き	メンターは、メンティーが自信をもてるような関わりを行っている。			
		メンティーは、自分の思いや考えに自信をもち、体験的リーダーとして活躍している。			
	4 OJTチームの動き	日常的にOJTチームが機能しており、課題に応じてメンバーを加えながら学び合い高め合っている。			
	5 学校の課題に対する意識	全ての教職員が、学校の課題に対して、チームで取り組むことが効果的であると認識している。			
6 組織風土	OJTチームを支持する雰囲気があり、教職員間の協働意識が高まっている。				
第3段階	1 スーパーバイザーの動き	校長が意図的に校内チーム制を設定しなくても、学校の課題解決に向け、実効性のある効果的な組織を構築している。			
	2 コーディネーターの動き	全ての教職員が学校の課題解決に向けて取り組むことができるよう、組織をコーディネートしている。			
	3 メンター・メンティーの動き	メンティーは、メンター・メンティーの枠を越えて、対等に関わり合っている。			
		メンターは、メンター・メンティーの枠を越えて、対等に関わり合っている。			
	4 OJTチームの動き	固定されたOJTチームは解消され、必要に応じて教職員が、主体的に課題解決に向けて学び合い高め合っている。			
	5 学校の課題に対する意識	全ての教職員が学校の課題解決に対して、果たすべき役割を認識し、自発的に実践をしようとしている。			
6 組織風土	年齢・キャリア・職種を問わず、それぞれの専門性を生かして能力を発揮しながら関わり合う組織が構築され、年度が変わっても組織力が維持されている。				